

3 各教科の現状と分析

令和5年度・日野市立仲田小学校 第1学年 授業創造プラン

	観 点	ワークシート	期待ポイント	児童の実態・良さと課題	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
国語	知識・技能	95	87	○知識・技能 ・ひらがな50音の読み・書きのテストでは、9割の児童が合格点をとることができた。ただ、書き順が正しくなかったり、字形が整わなかったりする児童が1割程度いる。語彙の知識においては、個人差が大きい。 ・助詞や長音、拗音、促音については、単元内で取り上げたときには理解できているが、文中で正しく書くことができない児童が3割程度いる。 ・音読については、約9割の児童が、教科書の文章をつかえることなく読むことができる。しかし、ひとまとまりの語や文として読むことが難しい児童が1割程度いる。	・書き順や字形については、つまづきを丁寧に見取り、個別に指導していく。語彙については、読むときや聞くときに新しい言葉に着目したり、書く時や話す時にいろいろな表現を使ったりできるような視点を与えていく。デジタル教科書を効果的に活用する。 ・助詞や長音、拗音、促音については、視写や聴写などを取り入れながら繰り返し指導することで定着を図る。 ・音読については、「読むこと」と関連させながら指導し、文字を目で追いながら声に何度も出すことで、語のまとまりに気付けるようにさせていく。部分的に見せることで視点を絞るという工夫も取り入れていく。
	思考力・判断力・表現力	89	85	○思考力・判断力・表現力 ・話すこと・聞くこと…話す内容を身近なことや経験したことから選ぶことができる児童が多い。しかし、内容を選ぶことが難しい児童も1割程度いる。聞くことにおいては、集中して聞き、相手の話したことに感想をもてる児童もいるが、個人差が大きい。 ・書くこと…8割程度の児童は、経験したことから題材を選び、3文程度の文を書くことができるが、順序や構成を考えて書くことが難しい児童、書くこと全般において支援が必要な児童もいる。	・児童の興味関心や伝えたい思いの強さを把握し、事柄を具体的に思い出せるように、板書を工夫したり、個別に話を聞いていって。聞くことにおいては、感想を伝えたり、質問したりする機会を意図的につくる。二人組で、話し手と聞き手のどちらになっているかを意識しながら、受けて返すやり取りを繰り返し経験させる。 ・常に相手を意識できるように、具体的な相手を示す。 ・書く時の順序を考えられるよう、文の構成を意識させる。また、友達と文を読み合う機会を増やすことにより、順序の大切さに気付くことができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・読むこと…9割程度の児童が、内容の大体を捉えることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・楽しんで読書をする児童が多く、授業中も意欲的に音読や文字練習に取り組んでいる。自分の思いや考えを伝え合うことについては、すすんで行える児童とそうでない児童がいる。	・読むことに関しては、登場人物の行動や言葉に着目しながら音読する機会を多く取り入れる。デジタル教科書を効果的に活用し、どの児童も場面の様子や登場人物の気持ちや正確に捉えられるようにする。 ・読み聞かせや本の紹介などの読書指導を通して、本への興味を高める。音読や暗唱を継続して行うことで、様々な文章に触れる機会を作り、言葉への関心を高めていく。 ・自分の考えをもてたこと、伝えられたことなど児童一人一人の頑張りを価値付け、すすんで学習に向かう態度を育てていく。
算数	知識・技能	94	85	○知識・技能 ・10までのたし算、ひき算については、全員が理解し計算することができる。ただ、習熟が十分でなく、指やブロックを使って行っている児童もまだ1割程度いる。	・問題文の理解については、文に書かれている具体物をブロックなどの半具体物に置き換えて考えさせたり、○(マル)印に置き換えて図で示したりすることにより、言葉のイメージをつかめるようにする。算数に用いられる言葉や正しく理解できるよう、デジタル教科書を効果的に活用し、どの児童も問題を正確に捉えられるようにする。
	思考力・判断力・表現力	86	86	○思考力・判断力・表現力 ・ほとんどの児童が文章を読んで題意を理解し、立式ができる。しかし、文章を正確にとらえていなかったり、理解することが難しかったりすることで、立式を間違えてしまう児童が1割程度いる。	・計算に時間がかかったり、1ずつの数えたり、数えひきをしている児童に対して、具体物や半具体物を操作させながら、理解を確実にしたり、数をもめて操作して計算できる練習をさせたりすることで、数の感覚を養っていき、また、身に付けさせたい言葉や方法などは、繰り返し唱えて確実に習得させる。また、家庭と連携を図り、児童の実態に合った課題を選び、宿題として出すことで、学力の定着を図る。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・9割程度の児童は、課題に興味をもち、すすんで取り組もうとしている。しかし、自分の考えを説明したり、人に伝えたりする場面になると、主体的に取り組める児童は、5割程度である。	・学習したことを普段の学校生活の中で活用できる場面を意図的に設け、筋道を立てて考えることの良さや面白さを経験させる。また、自分の考えを言葉や図を使って説明することを繰り返し経験させ、筋道を立て、根拠を明らかにしながら説明することの良さを体験させるとともに、そのような言動をきめ細かく価値付け、一人一人が主体的に取り組もうとする意識を高めていく。
生活	知識・技能			○知識・技能 ・就学前の生活体験の蓄積の程度は個々の児童によって多様であり、その豊かさにも個人差が大きい。	・隣接している「仲田の森」をはじめ、地域の施設や自然を活用して、身近なものに関する知識の獲得を進めるとともに、適切な関わり方を知らせ、実践できるようにする。
	思考力・判断力・表現力			○思考力・判断力・表現力 ・同じものを見聞きたときに、新たな気付きを得ることや、自分の感じたことを自分の言葉で表現することが難しい児童もいる。	・国語や図画工作の活動や日常生活なども関連させ、見聞きするときの視点を示すとともに、児童同士の学び合いの中で思考・判断・表現の力を向上させる。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・初めてのことに取り組むことや、仲間と一緒に楽しむことに対して前向きで、生活科の学習活動を楽しみにしている児童が多い。	・デジタル教材教具の正しい使い方を知り、表現思考の幅を広げる。 ・十分な体験を積むことができるような力・スキル・デザインを作成するとともに、児童の思いや願いを十分に引き出せるような、学習教材や学習環境の工夫をする。
音楽	知識・技能			○知識・技能 ・8割程度の児童は、歌唱活動や鍵盤ハーモニカの練習を通して、音程やリズムを意識しながら歌ったり演奏したりすることができている。リズムに合わせて手をたたいたり、歩いたりすることもできる。だが、自分で拍を捉えられず、周りの友達に合わせている児童もいる。	・わらべ歌や手遊びの歌、音やリズムを模倣する活動を常時的に取り入れ、正しい音程やリズムが心地よく感じられるようにする。
	思考力・判断力・表現力			○思考力・判断力・表現力 ・鍵盤ハーモニカを使った活動も指使いやタンギングなど難しく感じる児童もいるが、全体的に楽しみなが取り組んでいる。	・既習事項を生かし、リズムの違いや、音の高さや音色の違い、速さの違いなどに着目し、様々な音楽に触れ、楽しむことができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・リズムにのって言葉をつなげる活動は、多くの児童が楽しむことができる。	・感染予防に努めながら、歌唱や合奏の指導を行い、スモールステップで着実に力をつけることができるようにする。 ・音楽発表会への取組を通して、いろいろな打楽器に興味をもち、演奏の仕方を知ることや、みんなで演奏することの楽しさを味わえるようにする。
図画工作	知識・技能			○知識・技能 ・固定道具を基に、材料や用具の特性を生かして作品を作っている児童が多い。手先の器用さや道具の扱い方においては、これまでの経験や発達で個人差が大きい。	・手や体全体の感覚などを働かせて取り組めるよう、活動を工夫していく。また、道具の扱い方に関しては、基本的な使い方を繰り返し伝え、段階的に指導していく。
	思考力・判断力・表現力			○思考力・判断力・表現力 ・自分の表現したいことを創造的に発想し、工夫している児童がほとんどである。題材によっては、自分の表現したいことが見付からず悩んでいる児童も数人いる。	・導入で、生活経験を思い出したり言語化したことを黒板に書くなどし、作品のイメージをもちやすいようにする。手が進まない児童に対しては、会話を通して児童の思いを引き出したし、友達の作品の良さを紹介したりしていく。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・意欲的に取り組み、題材や材料に関心をもって活動している児童が多い。	・より意欲的に取り組めるよう、教材や教具を工夫する。また、導入でも興味を引き付けるように提示する工夫をする。
体育	知識・技能			○知識・技能 ・固定道具を使っている運動遊びやかけっこなど、複合的な動きのある運動については、個人差が大きいが、学習を通して上達する児童が多い。	・多様な動きを運動の中に取り入れ、基本的な体の使い方を体験・習得できるように、1単位時間の授業構成や単元の構成を工夫して授業を行う。複雑な動きのある複合的な運動については、発達の個人差を十分に考慮して無理のない指導を行うようにする。
	思考力・判断力・表現力			○思考力・判断力・表現力 ・体を使って、楽しみなが表現することや、動き方のコツをつかんで、練習に生かすことができる児童が少しずつ増えてきている。	・学習の資料を工夫し、どの児童にも動きの仕組みやコツを具体的につかめるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			○主体的に学習に取り組む態度 ・運動に対する意欲は十分にあって、どのような運動にも、興味をもって積極的に取り組むことができる。	・毎時の授業の中で学習を振り返り、練習して上達することへの喜びが実感できるようにする。
特別の教科 道徳				・道徳的な価値について、資料をもとに自分なりに考えようとしている児童は多く、自分の考えをすすんで伝えようとしている。 ・主題について、自分事として考えようとしている児童もいるが、教材文の中の出来事と捉え、自分事として考えを深めることができない児童も少なくない。 ・ようやく自分と他者の違いに気付き始めてきた。しかし、まだ自分を中心に他者との関わりを考えている児童も多い。多様な立場から考えを深めることはまだ難しい。	・興味・関心を持続できるよう、資料の提示を紙芝居風にし、映像を取り入れたりするなど、視覚化に努め、どの児童も参加できる授業にする。 ・自分なりの考えを表現しようとしている姿を認め励ますとともに、1年生の発達段階を踏まえて、教師が支援したり、補助したりしながら、考えを深められるようにする。 ・役割演技を取り入れたり、心情メーターを活用するなどの工夫をし、主題について自分事として考え、より主体的に取り組めるようにする。 ・少人数で話し合うことで、自分の考えをもてるようにしたり、いろいろな意見、考え方に触れたりできるようにする。 ・他教科や行事などとの関わりを考慮して年間指導計画を工夫し、道徳で学習したことを日常生活と関連付けて捉える機会を増やしていく。
特別活動				・学級での係活動や当番活動では、自分の役割を理解し、すすんで活動する児童が見られる中、自分がやるべきことを忘れがちな児童もいる。 ・学校行事のねらいを理解し、意欲的に参加する態度が見られる。	・特別活動の中で、話し合いの仕方、自己の役割、当番の責任についての理解を深めることで、よりよい集団生活を送ることができるようにする。 ・児童が決めた決まりや目標について、日頃から意識をもたせることで、主体的に自己実現を目指す態度を養うことができるようにする。

令和5年度・日野市立仲田小学校 第2学年 授業創造プラン

	観 点	ワーク テスト	期待 得点	児童の実態・よさと課題	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
国語	知識・技能	83.3	82.2	・「知識・技能」については、各クラスの差はあるが、期待得点を上回っている。漢字や片仮名については、正確に読み書きできるようになった児童が多い一方で、十分に習得することができていない児童もいる。また、語彙については個人差が大きい。 ・「思考力・判断力・表現力」については、ワークテストの点数は期待得点以上となっているが、「読むこと」や「話す・聞くこと」、「書くこと」への能力が十分に身に付いていない児童もいる。どの領域でも、自分なりの考えをもって学習に取り組める児童は少しずつ増えてきた。一方、それを表現することについては個人差が大きく、適切に表現できずにいる様子が見られる。特に、話すことや書くことにおいて、簡単な構成を意識して取り組むことや、相手意識をもって表現することについて課題が見られる児童がいる。	・他教科や生活の様々な場面で、文章を書く際には、既習漢字が確認できるような掲示物を工夫したり、教科書の付録やドリルを活用するよう声掛けをしたりするなどして意識付ける。 ・少ない人数のなかで、意見を伝え合ったり、発表したりする活動を充実させる。話の聞き方について指導し、大事なことを落とさずに聞く習慣を学級活動や学年集会などを通し、繰り返し声掛けをしていく。
	思考力・判断力・表現力	86.6	84.5	・主体的に学習に取り組む態度については、すすんで読書をしたり、学習したことを日常生活や他の学習に生かそうとしている児童は7割程度いる。しかし、個人差はかなり大きい。	・日記やワークシートなどで、思ったことや伝えたいことを書く活動の充実を継続して行う。個人だけにとどめず、複数で記録したものを見合う機会を増やすことで、より良い書き方を知る機会を増やす。
	主体的に学習に取り組む態度				・取材、構想、構成、叙述、推敲、清書の段階を丁寧に追うことで文章を書く流れを定着させる。 ・タブレット端末をスピーチや音読の練習、漢字の練習などで効果的に使用し、自己の学習を自己評価できるような機会を増やす。
算数	知識・技能	88	82.8	・「知識・技能」については、たし算・ひき算の筆算や長さ・かさの加減計算の仕方が身に付いている。一方で、1年生の既習事項の加法の繰り上がりや減法の繰り下がり計算が、十分に習得できていない児童がクラスに数名いる。また、単位変換や時刻・時間の読み取りには課題が残る。	・計算プリントや、ICT機器を活用して、理解の程度に応じた反復練習をすることで、計算力の定着を図れるようにする。また、学習の過程に算数的活動を多く取り入れ、量感を養う。 ・文章題の分かっていることや聞かれていることに線を引き、図やテープ図で表す活動を取り入れ、問題の意味を正しく捉えさせる。
	思考力・判断力・表現力	81	81	・「思考力・判断力・表現力」については、文章題を読み解き、立式が正しくできる児童が増えてきているが、文章題の内容を理解できずに、立式が正しくできない児童も若干名いる。 ・主体的に学習に取り組む態度については、課題に興味をもち、すすんで取り組もうとする児童がほとんどである。ただ、自分の考えを説明する場面になると、主体的に取り組める児童は、半分程度である。	・算数的活動を多く取り入れ、およその見当を付けたり、数の相対的な大きさについて理解できるようにしたりする。 ・タブレット端末または黒板を活用し、自分の考えを図や式で説明し、対話しながら、考えを伝える力を付けるとともに、様々な考え方に目を向けられるようにする。 ・日常生活と算数で学習した内容を意図的に結び付ける声掛けを行う。
	主体的に学習に取り組む態度				
生活	知識・技能			・「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」については、活動や体験について、観察カードなどに観察したことを書き込むことができる児童は多いが、そこから分かったことや、比べて感じたこと、これからの生活への結び付きなどの気づきを表現することができる児童は2割程度と少ない。 ・主体的に学習に取り組む態度については、毎回の授業や体験活動を楽しみにし、課題に積極的に取り組める児童が多い。しかし、自分の興味関心によって、主体的に取り組むことが難しい児童も数名いる。	・一人一人の気づきを共有する場を設定し、「見付ける」「比べる」「たどる」などの多様な学習活動を取り入れる。教師がそれらを意識した言葉掛けを行ったり、児童の変容を見取り、フィードバックしたりしていく。また、気づきにつながる質問を繰り返していき、気づきの視点を養う。 ・一人一人の児童の思いや願いを丁寧に受け取り、対象との出会わせ方の工夫や児童の願いを大切に学習課題を設定する。また、体験活動と表現活動を相互作用させる単元構成の工夫を行うことで、気づきの質を高め、学習意欲が持続するようにする。 ・端末の写真機能などを活用し、ポートフォリオとして振り返りができるようにしていく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
音楽	知識・技能			・音楽を学習したいという意欲がある児童が多い。 ・「音楽表現の創意工夫」については、曲想に合わせて歌い方や身振りを工夫して表現している児童が多い。曲の雰囲気を感じ取り、自分の表現に生かそうとする様子も見られる。	・歌うことで自分を表現できる喜びや楽しさを感じ取らせるために、日常的に歌を歌うことを心がける。 ・児童が曲想から感じ取ったことを大切に、歌声だけでなく、表情や身体表現など様々な表現方法を工夫して指導する。
	思考力・判断力・表現力			・「音楽表現の技能」については、歌唱や楽器演奏を楽しみ、必要な技能をおおむね身に付けて表現できる児童が多い。一方で、手先の感覚が十分に身に付いていないために、楽器演奏に消極的な児童もいる。 ・「鑑賞の能力」については、音楽を聴いて、聴き取ったことや感じ取ったことを、発言したり体で表現したりできる児童が多い。	・階名唱や部分的な運指の練習をさせたり、運指を示すカードまたは掲示物、さらにICT機器を活用して視覚的なモデルを提示したりして、スモールステップで練習を進める。また、一人一人の指使いを指導する。 ・様々な音楽に触れる機会を増やし、互いの考えを共有することで、音楽の面白さや美しさを味わえるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度				
図画工作	知識・技能			・「知識・技能」については、表したいことを基に、材料や用具の特性を生かして作品を作っている児童が8割程度いる。絵の具に関しては、パレットの使い方や水の調整など、基本的な使い方がまだ身に付いていない児童もいる。	・手や体全体の感覚などを働かせて取り組めるよう、活動を工夫していく。また、絵の具に関しては基本的な使い方を繰り返し、定着させるようにする。 ・イメージを膨らませる活動を十分に行ってから主活動に取り組ませる。自分の表したいことが広がらない児童に対しては個別に声掛けをしたり、補助的な素材を提示したりして児童の思いを引き出せるようにする。
	思考力・判断力・表現力			・「思考力・判断力・表現力」については、自分の表したいことを創造的に発想し、工夫している児童が学級の7～8割程度である。題材によっては、自分の表したいことが見付からない児童も数名いる。 ・主体的に取り組む態度については、意欲的に取り組み、夢中になって活動に取り組む児童が9割程度である。	・導入の仕方や素材の提示の仕方を工夫することで、題材に興味をもたせ、自ら学びに向かう姿勢にさせる。友達の作品を鑑賞し合う時間を設定し、良さを共有したり、新しい視点をもたせたりできるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度				
体育	知識・技能			・「知識・技能」については、個々の技能の差が見られる。 ・「思考力・判断力・表現力」については、ゲームでは、チームで声を掛け合って試合をしたり、作戦を考えたりできるようになってきている。 ・主体的に学習に取り組む態度については、体を動かすことに意欲的であり、苦手なことへも挑戦する態度が見られる。また、安全に運動するための決まりを守り、場の準備や片付けも手際よく行うことができる。一方、主体的な態度で運動に取り組めない児童も複数名いる。	・児童が興味をもって取り組める運動遊びを考え、様々な動きを体験させる。また、運動のポイントを視覚的に表したり、手本を見せたりして、体の動きを意識しやすくする。 ・工夫して遊んでいる児童を見付け、全体に広げていく。 ・めあてを明確に提示し、少し努力するとできる課題を示したり、場の設定を工夫したりし、誰もが楽しく運動できるようにする。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
特別の教科道徳				・登場人物の姿や行動を通して、思ったことや感じたことを素直な言葉で表現できている児童が多いが、互いの考えを聞いて深めていくことは今後の課題である。 ・自分の経験と結び付けて考えられる児童が7割程度いるが、難しい児童も3割程度いる。	・自分の考えをもたせてから、話し合いに参加できるようにするとともに、問い返しを行い、一つの意見を広げたり深めたりしていく。 ・ICTを活用し、互いの考えを視覚化することで、交流しやすくする。 ・自分のことを振り返りやすいように、日常場面の写真を提示したり、教師から見たよい行いを伝えたりする。また、友達の意見を参考にできるように、例をいくつか示す。
特別活動				・当番活動や係活動をすすんで行うことができる児童が8割程度である。 ・学級や自己の課題意識をもち、解決や実践に向けてすすんで意見を発表したり、考えたりすることができる児童がいる一方、課題意識が薄い児童もいる。 ・学級会を段階を追って行っているが、話し合いの進め方や合意形成の図り方についての理解は、個人差が大きい。	・学級や自己の成長と課題について定期的に振り返り、その改善策や実践方法について、例示を与えたり、学級で話し合ったりしながら具体的に考えられるようにする。 ・話し合いに入る前には、自分の考えを明確にさせることで、自分事として考えられるようにする。合意形成の図り方・話し方・聞き方を段階的に指導する。また、振り返りの活動を必ず行い、良い点や課題を次に生かせるようにしていく。

令和5年度・日野市立仲田小学校 第3学年 授業創造プラン

	観 点	ワーク テスト	期待 得点	児童の実態・よさと課題	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
国語	知識・技能		76	「知識・技能」 ワークテストの期待得点を下回っている。習熟に個人差が大きく見られ、書段の授業や生活の中で、既習の漢字を使えない児童が各クラスに数名いる。	・新出漢字の学習では、ただ反復練習をさせるだけでなく、漢字の成り立ちを調べさせたり、指書きでとめ・はね・はらいを意識させたりするなど、一つ一つの漢字の意味を伝え、正確に書くことができるようにする。またその際、漢字ドリルに載っている覚え方のポイントを効果的に活用する。
	思考力・判断力・表現力		88	「思考力・判断力・表現力」 「話すこと・聞くこと」においては、伝えたいことを明確にして、事実と自分の考えを分けて話さない児童も若干名いる。一方で、それらの力が十分に身に付いていない児童も若干名いる。また「聞くこと」においては、相手の話の中心を聞き取れる児童が多い一方で、それが難しい児童も若干名いる。「読むこと」については、様々な分野の文章を読む児童、読書量が多い児童がいる一方、積極的に読書に取り組めない児童がいる。積極的に読書をする児童は、文章を正しく読み取れる場合が多い。文章を読んで、自分の考えをもつ児童が増えてきた。	・「文や文章を書く」際には、既習の漢字や表現したいことによりあった言葉を使うように指導する。 ・漢字小テストを活用し、間違えた漢字の部位をチェックし、正しい形を覚えさせる。 ・結束のジャムボードやミラシードを活用し、互いに意見を伝え合ったり、発表したりする活動を充実させ、自分や他者の考えを比較したり、まとめる力を身に付けさせる。 ・相手や目的を意識して話し合う経験をグループやペアの学習を通して慣れさせていく。まず、指示や説明を最後まで聞いてから質問したり、活動を始めたたりすることを徹底して指導する。 ・中心となる語句や文を捉えるために、教科書に線を引かせたり、ワークシートやノートに書き出させたりしながら、取組に基づいて読み取ることができるようになる。 ・図書の日間などを通して、様々な分野の本を手にとる機会を増やしながら、読書習慣の定着を図る。 ・各単元で付けた力を明確にし、児童が自分の学習を振り返って、できるようになったことやそれを何に生かすかを意識できるようにしていく。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・言葉による見方・考え方を働かせ、身に付けた力を自覚して主体的に学習に取り組む児童がいる一方で、表面的な学習にとどまり、国語を大切にすることや進んで伝え合おうとする意欲が十分でない児童も見られる。	
社会	知識・技能		86	「知識・技能」 ・方位や地図記号などの新しい知識を興味をもって吸収し、地域調べの拡大地図作りにて、地図記号を取り入れてまとめることができた。	・見学の機会を大切に、地域で働いている方や、詳しい知識をもっている方から直接話を聞くことで、学びをより深めていくようにする。 ・新出の用語や場所等の知識については、ICTを活用して楽しく覚えられようようにする。インターネット検索や、グループアースの地図機能などを活用する。
	思考力・判断力・表現力		83	「思考力・判断力・表現力」 ・お店見学の内容(店内の様子や仕事の工夫など)を、新聞に分かりやすくまとめることができた。工夫の理由をまとめられない児童が若干名いた。	・学習したことを新聞やパンフレットなどにまとめる活動を取り入れる。まとめる際にはポイントを伝えたり、実際の新聞やパンフレットを参考にさせたりする。国語科「仕事のくふう見つけたよ」の単元とも運動させ、文章の組み立ても考えさせる。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・比較・関連付けながら資料を読み取ったり、理由を考えたりするのが苦手な児童が若干名見られる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」 ・地域調べを通して、学校の周りの様子や、日野市全体の特色に関心をもつ児童が増えた。一方で、体験していないことについては想像することが難しく、理解が深まらない児童も見られる。	・資料を読み取るための視点やキーワードを提示し、資料を比較・関連付けの学習の機会を増やし、社会的な見方・考え方を身に付けさせる。また、ペアやグループで考えを話し合う機会を増やし、互いの考えを深めることができるようにする。
算数	知識・技能		92	「知識・技能」 ・たし算・ひき算・かけ算の筆算について、確実に技能を身に付けている児童が多い。一方で、習得しきれていない児童が見られ、個人差が大きい。	・児童の実態に応じた指導を行い、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる。 ・具体物を操作させたり、実際の生活の場面に置き換えて考えさせたりすることで、実感の伴った理解につなげられるようにする。 ・わり算の計算を繰り返し行うことで、習熟を目指す。
	思考力・判断力・表現力		85	「思考力・判断力・表現力」 ・わり算では、わる数の九で答えを導き出すことが身に付き始めたが、あまりのあるわり算は、全体的に困難が必要である。	・児童が興味・関心をもって、すでに問題に取り組むことができるように、発展的な課題も考慮取り入れる。 ・「思考力・判断力・表現力」 ・かけ算の文章題では、単位量当たりの大きさや、それがいくつ分であるかについての理解が確実になってきた。 ・文章題では、題意を正確に読み取り、具体的な場面として捉えたり、考えたりすることが難しい児童がいる。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・「思考力・判断力・表現力」 ・かけ算の文章題では、単位量当たりの大きさや、それがいくつ分であるかについての理解が確実になってきた。 ・文章題では、題意を正確に読み取り、具体的な場面として捉えたり、考えたりすることが難しい児童がいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」 ・主体的に取り組む児童が多く発言も意欲的にしている。計算問題は繰り返し行い基礎基本がついてきている。文章問題になると、意味が分からず取り組むことができない児童がいる。	・必要知識や考え方、計算の工夫の仕方などについて、普段の生活の中で体験的に理解できるようにする。
理科	知識・技能		88	「知識・技能」 ・総合的な学習の時間で蚕の飼育を経験したことで、実感を伴って、昆虫の成長や体のつくりを理解することができた。	・身近な植物や動物について、実際に観察をするだけでなく、本やインターネットを活用して詳しく調べる。 ・他教科等と関連付けた学習計画を立て、実際に体験したり、生き物を飼育したりして、命の大切さを感じながら学習できるようにする。
	思考力・判断力・表現力		88	「思考力・判断力・表現力」 ・自然の事物・現象について、差異点と共通点を見いだし、表現するなどして、問題解決を図ることができるようになってきた。	・観察や実験の際には、差異点と共通点に注目させ、問題解決につなげる経験をさらに積み重ねていくようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・実験結果を図や表にまとめて表現する経験がまだ少なく、さらに経験を重ねることが必要である。 ・身近な植物や昆虫などの生き物に対して、高い関心をもって学習に取り組んでいる。校庭や仲田の森を活用して、生き物探しに取り組んでいる。	・「課題設定」→「予想→実験→考察→まとめ」の流れをどの単元でも実施し、見通しをもつて主体的に取り組めるようにする。 ・「予想・観察や実験の手順・結果・考察を表す文章表現や図、表などを例示し、児童が論理的思考の過程を表現できるようにする。
音楽	知識・技能			・音楽活動に対して、意欲や関心の高い児童が多い。一方で、集中力の特長が難しく、指示をしっかりと聞けなかったり、思ったことをぐいに口に出してしまう児童がいる。	・ピアノの音を合図にして児童を動かしたり、言葉や簡潔にしたりして、全員が集中できる時間帯を多く作っていく。 ・音楽の要素を授業の中で共通理解し、児童が鑑賞の良さを共有できるようにしていく。
	思考力・判断力・表現力			・音楽の要素を感じ取り、その良さや面白さを味わうことのできる児童が多い。 ・リコーダーの息使いに気を付け、美しい音色を求めようとする姿勢が見られる。一方で、指先の感覚が備わっていないかったり、器用ではなかったりする児童もいる。	・リコーダーの指導の際には、必ず正しい姿勢と息使いを確認している。また、技能が追い付かない児童に対して言葉掛けを行ったり、個別練習を行ったりする。
	主体的に学習に取り組む態度			・友達と協力できる児童もいるが、特定の児童を嫌がったり、自分で勝手な活動をしたがる児童もいる。	・小グループやペア活動する時間を取り入れ、クラスのどの友達とも協力して学ぶよう指導する。また、活動でのやるべきことややってはいけないことを児童に明確に示し、それができている児童を積極的に褒めるようにしていく。
図画工作	知識・技能			・「知識・技能」については、表現したいことを基に、材料や用具の特性を生かして作品を作っている児童が多い。絵の具にも慣れていて、水分量や色の混色も自分のイメージに合わせて調整することができる児童が多い。	・児童の成長を見ながら、使う用具を増やしていく。新しい用具や材料を扱うときは安全面を配慮し丁寧に指導することで児童が安心して活動できるようにする。
	思考力・判断力・表現力			「思考力・判断力・表現力」については、形や色の感じを味わい、豊かな発想でのびのびと表現できる児童が多い。しかし、今までの経験の違いから、材料からイメージを広げることの柔軟性に大きな差がある。	・多様な発想・表現ができるように様々な素材や感触を味わえる題材を取り入れ、児童の感性を多様な切り口から高め、育てていく。また、困り感のある児童に対しては個別に言葉掛けで意図の思いを引き出せるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」については、意欲的に取り組み、夢中になって制作に取り組む児童が多い。その一方で、話を聞く姿勢がとれない児童や、班での準備や片付けなど基本的な作業ができない児童も一部おり、クラス差がある。	・児童の性質に合った題材を選び、導入の仕方や素材を提示するタイミングなどを工夫し、児童が興味をもち、自ら学ぶ仕向かおうとして、事前の教師から必要情報を提示するなどして、情報収集が効果的に行われるようにする。 ・まとめた情報を児童相互に交流させたり発表せたりしながら、自分の考えをより深めたり、新しい気付きを得たりすることにつなげられるようにする。また発表の一手段として、学習者用端末を使用して、まとめた発表、交流を充実させる。
体育	知識・技能			「知識・技能」 ・体育が好きで、体を動かすことに意欲的な児童が多い。様々な技能を意欲的に学んで発揮することができる。	・ワークシートを活用して、めあてを明確に意識させ、振り返りができるようにする。
	思考力・判断力・表現力			「思考力・判断力・表現力」 ・グループ活動では、チームで声を掛け合って作戦を考え、ゲームでは励まし合いながら取り組む姿が見られる。	・振り返りを大切にすることで、新たな課題に気付くとともに、その課題の解決に向けた考えや「思考力・判断力・表現力」を高めたいという意欲が育ち、また、困り感のある児童に向けては個別に言葉掛けで意図の思いを引き出せるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・安全に運動するための決まりを守り、学習の準備や片付けは、協力して行うことができる。 ・苦手な運動や動きがあると、主体的に取り組めない児童がいる。様々な運動や動きを体験させ、運動の楽しさを味わわせるとともに、基礎的・基本的な技能をしっかりと身に付けさせていく必要がある。	・多様な場の設定を行い、スモールステップで授業を進めながら、一人一人が基礎的・基本的な技能が習得できるようにする。 ・学習者用端末を使用して作戦を立てたり、カメラ機能を使って動画撮影を行い、振り返りに使用する。
外国語活動	知識・技能			・ワークシート等に自分の考えを記述することで、一人一人が自分の考えをもつことができる。	・個別に考える時間を十分に確保することで、一人一人が自分の考えをもって授業に参加できるようにする。
	思考力・判断力・表現力			・記述をもとに、児童が互いの考えを伝え合うことで、自分の考えと比べたり、友達の考えを参考にして自分の考えを深めたりしていくことができる。	・少人数での意見交換や全体での話し合いの場を設けることで、活発な交流ができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度			・教材文の内容を自分のことに置き換えて考えることで、自分事として考えを深めることができる。	・教師の発問やワークシートの発問を工夫し、児童にとって身近な問題につなげて考えさせることで、児童が自分自身の課題として捉え、自分の生活に生かせるようにする。またその際、友達の意見を参考にできるようにする。
外国語活動	知識・技能			「知識・技能」 ・簡単な英語(挨拶・数字)を、話すことができる。	・外国語を発音したり聞いたりすることに楽しみながら取り組めるよう、歌、ゲーム、アクティビティなど、多様な活動を取り入れる。
	思考力・判断力・表現力			「思考力・判断力・表現力」 ・好きな物や色を単語で伝えることができる。	・他者と会話をしながら活動を通して、コミュニケーション力を向上させる。
	主体的に学習に取り組む態度			「主体的に学習に取り組む態度」 ・自分の考えや思いを英語で伝えるのが難しい児童が多い。 ・外国語や外国の文化や習慣などに興味をもつ取り組みができている。 ・外国語を使って話すことに意欲的に取り組むことができている。	・担任とALTが挨拶する姿を見せたり、ALTと挨拶させたりして、簡単な外国語を話す活動を毎時間設ける。 ・ALTを有効に活用することで、正しい発音を聞いて発音できるようにする。
特別活動	知識・技能			・係や当番の活動を通して、他者やクラスの役に立つこととする意欲と実践の態度が育まれている。	・児童の意欲や思いを大切にしながら、係や当番の活動を設定していく。
	思考力・判断力・表現力			・自分の考えと違う考えが出てきたときに、折り合いをつけたら、その考えの良さを認めたりすること個人差がある。	・話し合いの仕方を実践的に学習できるようにする。 ・他者と意見が異なる場合における合意形成の関わりについて、話の仕方、相手の話の聞き方、話のまとめ方などを、体系的に学習できるようにする。 ・話し合う経験を積み重ねられるように、話し合いの場を設定していく。
	主体的に学習に取り組む態度			・地域の環境や人材の協力を得て養育することを経験し、観察した。実際に体験することを通しての気付きは多く得られたが、それをもとに課題を設定する力は個人差が大きく、支援が必要な児童も多かった。	・地域の環境、地域の人材を生かした自然体験活動や、これからも積極的に取り入れて、興味関心をもたせる。実際に触れてみる、実物を観察するなど実体験をもとに課題を設定し、学習を進められるようにする。
総合的な学習の時間	知識・技能			・養育した体験を、理科の昆虫の育ち方の学習に生かすなど、学んだことを、他の教科に生かしていることとする態度は身に付いている。	・図書の本やインターネットを様々な場面活用しながら学習を進めていく。 ・児童の様子にあわせて、自分で資料を探すよう促したり、事前に教師から必要な情報を提示するなどして、情報収集が効果的に行われるようにする。
	思考力・判断力・表現力			・教師がある程度資料を提示すれば、それを活用して情報収集し、自分の課題を追及できる児童は増えてきているが、自分で適切な資料を見つけることはまだ難しい。	・まとめた情報を児童相互に交流させたり発表せたりしながら、自分の考えをより深めたり、新しい気付きを得たりすることにつなげられるようにする。また発表の一手段として、学習者用端末を使用して、まとめた発表、交流を充実させる。
	主体的に学習に取り組む態度			・自分の立てた課題をもとに探究的な学習を進めながら、新しい課題を見つけることができる児童もいる。	

令和5年度・日野市立仲田小学校 第4学年 授業創造プラン

	観 点	ワーク シート	期待 得点	【 】内の記述は、児童の学力向上を図るための課題(東京都)の結果より	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
国語	知識・技能	80.1	82.1	・「知識・技能」については、期待得点を2ポイント下回っている。漢字の習熟や語彙については、定着にまつべきある児童も見られ、個人差がある。【学習をすすめることができるようになるには、学習の方法を工夫している】との回答は、63.5%で、自分の苦手なことや、構成を考へることについては、適切な助言が必要である。 ・「思考力・判断力・表現力」については、期待得点を上回っている。文章を正確に読み取れる児童が増えているが、普段の授業の様子を見ると、考えたり、学んだことを表現したりすることについて、個人差が大きい。自分の考えを伝えたり、相手意識をもつこと、構成を考へることについては、苦手意識をもっている、十分に身に付いていないといった児童もいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、自分の考えをもって前向きに学習に取り組める児童が増えているが、見直しをして修正したり、友達の考えと自分の考えを比べたり、自分の考えを読めたりする姿は少ない。【文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している】の回答は、5.4%にとどまり、自分の考えを積極的に伝えることには課題がある。	・新出漢字の学習では、その漢字の持つ意味や、漢字を使った文を考えさせ、主観的に学習できるようにする。文や文章を書く際には、既習漢字を使うように意識させる。 ・漢字小テストを計画的に行い、練習の時間を取ったり、児童によっては出題数や出題の難しさを調整できるようにする。 ・得意の漢字については、宿題の時間や朝学習を通して読書習慣の定着を図る。 ・「話すこと・聞くこと」については、少人数での対話の場を意図的に設け、目的のめを明確にする。 ・「書くこと」については、付箋を使ったり、ワークシートの工夫をしつづけることにより、児童が書く意欲をもつようになる。また、教材から演習まで一つの時間を丁寧に通う。 ・「読むこと」については、中心となる語句や文を捉えるために、ダウト読みや問題文を詳しく読み、自分の考えの根拠を教科書から探させたりしながら、叙述の筋をたどるようにつづける。 ・「書くこと」については、自分の見聞やゴールを明確に示す。また、学習の途中で自己評価・相互評価の場を設定し、自分の学習を振り返ることができるようにする。 ・友達同士の教え合いや互いに促し合う課題の設定を行い、「学び合う」と楽しめさせることができるようにする。
	思考力・判断力・表現力	87.8	82.8		
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能	85.4	82	・1学期に実施したワークシートは、期待得点と比較して、「知識・技能」は3.4ポイント上回っている。地区の男児や女児についての知識、都道府県の名前や位置を正確に覚えることなどは、大きな個人差が見られる。 ・「思考力・判断力・表現力」は全国平均を4.7ポイント上回っている。学習問題について自分の考えをもち、表現できる児童が多い。調べたことを簡潔にまとめ、図やグラフを活用することなどは苦手な傾向がある。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、作業や調査活動にすすんで取り組むことができる。社会的事象から課題を見付けたり、粘り強く解決しようという主体的な学びについては、大きな個人差がある。【社会科の学習が得意かどうかの問いに対して、どちらかといえば得意ではない、得意ではないとの回答が学年全体の29%あり、学習意欲の向上に努める必要がある。】	・47都道府県を漢字で正確に書けるように、国語科の「カンジー博士の都道府県之旅」と関連付けたり、プリント演習をしたりして意欲を高める。また、地図帳を活用し、都道府県の色を理解させる。 ・出射授業等を積極的に取り入れることで、社会生活や伝統文化を伝える人々の側に触れ、自分ができることを主体的に考えようとするように指導する。また、オクリングやスライドを活用して、課題を明確にしつつ、互いの考えを伝え合ったりして、思考を深める問題解決型の学習を展開する。 ・1人1台端末の機能を活用し、学習したことをどのようにまとめたか、マッピングなどの方法を選ぶ手段を増やし、パンフレット、新聞、マンガ、スライド等のまとめた方を指導する。
思考力・判断力・表現力	86	81.3			
主体的に学習に取り組む態度					
社会	知識・技能	84.5	85	・「知識・技能」に関しては、全国平均を0.5ポイント下回っている。1学期に学習した「わり算の筆算」「角の大きさ」「小数」は、各領域の基礎となる内容であり、今後も定期的に復習していくことが必要である。 ・「思考力・判断力・表現力」については、全国平均を5.6ポイント下回っている。問題を正しく解くことができるも、考え方を図示することや、それを順序立てて説明することに慣れていない児童が多い。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、問題解決の過程を大切にすることを求めていることが必要である。	・けやき教室の活用や一人1台端末の活用を通して、個々の学習進度に応じた「わり算」の学習を取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ・算数の考え方を身に付けた場面では、視覚的に情報を捉えられるよう、黒板掲示の教材を工夫したり、デジタル教材を活用したりする。また、自分の考えを整理する時間、少人数のグループで互いの考えを伝え合う学習や時間など対話的に学習が深められる形態を工夫する。 ・「分かるまで考える」「できるまで取り組む」時間をより充実させ、「分かった」という喜びを実感させていく。
	思考力・判断力・表現力	74.8	80.4		
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能	85.6	83	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」共に、期待得点を上回っているが、「電池のはたらき」等、エネルギーに関する単元の理解には、個人差が大きい。【電流は、自分で理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う】との回答は、58.1%と低めである。理解できているかを確かめるために、説明しながら自分の考えをもつと確保する必要があることへの意識が低い。学習課題と自分との関係性について、その理由を生活経験等から考えることと難しい児童が多い。また、実験結果から論理的に思考できる児童と、できない児童の個人差が大きく、考察を深めにくい。 ・身近な植物や昆虫、実験に対して、関心をもち積極的に学習する児童が多い。特に実験には高い関心をもって取り組み、結果を得ることを楽しんでいる。	・見通しをもつて学習に取り組めるようにするために、板書を分りやすくしたり、ベアや小グループで活動させたりする。 ・学習用端末を用いて映像教材を活用し、科学的事象を焦点化しながら「観察的に捉えようとする」。 ・「課題解決型学習」計画・実験・結果・考察」と順序立てて学習を進め、1人1台端末の活用により、実験や観察の過程を明確に示す。 ・学習課題やそれに対する予想・観察・実験の手順、結果などの提示の方法やノートのための工夫を工夫し、児童が論理的に思考しながら、学習を進められるようにする。また、実験の結果から考えたこと、予想と比べて考えたことなどを記述する活動を取り入れる。
思考力・判断力・表現力	80.4	78.5			
主体的に学習に取り組む態度					
理科	知識・技能			・「知識・技能」に関しては、自分の思いや意図を音楽で表現するための技能を身に付けている児童がいる。一方で、リコーダーの息使いに気をつけ、美しい音色を求めようとする姿勢が見られる。一方で、指先の感覚が備わっていないかたり、器用ではなかったりする児童もいる。 ・「思考力・判断力・表現力」に関しては、自分の思いや意図を表現したり、音楽の要素を感じ取ってその良さや面白さを感じるなどの児童がいる。一方で、思いや意図はあっても、表現するのが苦手な児童もいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、友達と協力できる児童もいるが、自分勝手な活動をしたがる児童も多い。また、音楽活動に対して、意欲や関心の高い児童がいる一方で、集中力の持続が難しく、指示をしっかりと受けなかったり、思ったことをすぐに口に出してしまうりする児童がいる。	・リコーダーの指導の際には、必ず正しい姿勢と息使いを確認していく。また、技能が追いつかない児童に対して言葉掛けを行ったり、個別に練習を促したりする。 ・音楽の要素を授業の中で共通理解し、児童が音楽の良さを共有できるようにしたり、自分の思いや意図を表現する音楽を随時伝えたりする。 ・小グループやペア活動する時間を取り入れ、クラスの友だちとも協力して学ぶよう指導する。また、活動でのやるべきことを児童に明確に示し、児童への言葉を簡潔にしたり、簡単なリズムの反復で目ざせたりするようにして、全員が集中できる時間を多くつくる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・「知識・技能」については、既習の用具や材料の特徴を生かし、工夫して表現できる児童が多い。新しい道具に対しても、興味をもって積極的に使用しようとする姿勢が見られる。 ・「思考力・判断力・表現力」については、のびのびと発想できる児童が多い。しかし今までの経験によって、自分らしい表現方法への発想の広がりには差がある。また、既成の記号的表現から抜け出せず、表現が幼い児童も半数いる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、どの課題にも意欲的に取り組める児童が多いが、主体的に自分でのイメージを深めようとする児童は半数程度である。また、まだ話を聞く姿勢を保持できない児童、道での片付けを人任せにしている児童も一部いる。	・児童の成長に合わせて使う用具を増やしていく。また、新しい用具や材料を扱うときは安全面に配慮し、丁寧に指導することで児童が安心して活動できるようにする。 ・五感を活かせることを意識した題材に、全体を使って取り組ませること、児童の感性を高め、向上していくようにする。また、記号的表現から感覚までを、友達や作品鑑賞などを通じてよさや美しさを感じる意欲を育てていく。 ・板書や発問を工夫して、少しずつそれぞれが見通しをもつことを意識できるようにする。 ・児童の実態に合った題材を選び、導入の仕方や素材を提示するタイミングなどを工夫し、児童が興味をもち、自ら学ぶようとする環境をつくる。また、授業規律を守ることを繰り返し徹底し、指導していく。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
図画工作	知識・技能			・個々の技能に差がある。 ・自分の課題を見付けられる児童が増えてきた。課題解決に向けて工夫したり、考えを伝えたりすることは課題である。 ・すすんで運動に取り組む児童が多い。決まりを守ったり、仲間と協力して運動しようとする態度をさらに育てる必要がある。	・1単位時間内を示す技能のポイントは1～2つとし、スモールステップで段階的に指導する。 ・学習カードを工夫し、めあてと振り返りを行っている。その際、めあてで振り返りが結び付くように指導する。 ・児童同士やチームでの学び合いの際、何を見合えばよいのか明確にする。 ・決まりを守る良さや協力する良さに気付けるように、良かったことを具体的に数字、掲示したり、準備や片付けにかかった時間や良いポイントなどを伝えたりするなど、視覚化する。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりとすることで、多様な考え方を示すことに気つく児童が増えた。 ・価値について理解している様子は見受けられたが、自分事として考えることや、自己の経験と結び付けて考えることは今後の課題である。 ・その場面での登場人物の気持ちや人々の葛藤について、自分の言葉で話せる児童が増えてきているが、人物の気持ちや考えを捉えにくい児童もいる。	・自分事として考えられるように、今までの経験についてベアやグループで話し合う時間を取り入れたり、身近ないくつかの場面を提示したりする。 ・発問を焦点化し、何について考えるのか明確にして考えをもたせる。 ・話したい、聞きたいと思える場面（葛藤場面など）を取り上げ、自分の立場をはっきりさせて議論させる。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
体育	知識・技能			・外国語を話したり聞いたりすることに、興味・関心をもっている児童が多い。自信がなく、恥ずかしがって積極的に参加できない児童や、話されている内容が分からずに消極的な児童も多い。 ・たのしい外国語がうまく話せなくても、身振りや手振り、表情を付けるなどして、自分の思いを伝えようとする気持ちや育てていく必要がある。	・ゲームや歌などを取り入れて、楽しく外国語の発音に慣れる機会を作っていく。 ・視覚的な資料や映像を活用したり、スモールステップで活動を展開したりすることで、少しずつ抵抗感を減らしながら参加できるようにしていく。 ・ALTの先生との交流を通して、外国語を聞いたり、話したりする機会を増やす。 ・非言語コミュニケーションの大事さを伝えるときに、ミニゲームや児童同士の交流の場を設定し、「伝わった」という経験を積ませる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
外国語活動	知識・技能			・探究の視点が明確に示されれば、課題設定や探究活動の見通しをもって活動することができ。 ・学習課題が身近なものであるほど、興味・関心をもって探究活動に取り組むことができる児童が多い。今後も、郷土に対する意識、郷土の一人としての意識を育み、地域社会をよりよくするための課題意識をもつきっかけをつかめるようにする必要がある。 ・探究活動で得たものを整理したり、結び付けたりして思考を広げることについては、その技能が十分ではない児童が多い。	・具体的な課題を見付けられるように体験活動を充実させ、身近な環境や地域の人々との関わりから自分事として探究課題を設定できるようにする。 ・インターネット、インタビュー、図書、取材、体験など、情報収集の方法の選択肢を増やし、その時の探究に適した調べ方、まとめ方を自分で選択して学習を進めていく。 ・調べたことを個人の中だけで終わらせるのではなく、協働的にまとめたてたり、発信したりして、学び合える場をつくる。 ・探究活動の各過程で一人1台端末の機能を活用し、活動の幅を広げることができるようにする。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
特別 の 資 料 道 徳	知識・技能			・外国語を話したり聞いたりすることに、興味・関心をもっている児童が多い。自信がなく、恥ずかしがって積極的に参加できない児童や、話されている内容が分からずに消極的な児童も多い。 ・たのしい外国語がうまく話せなくても、身振りや手振り、表情を付けるなどして、自分の思いを伝えようとする気持ちや育てていく必要がある。	・ゲームや歌などを取り入れて、楽しく外国語の発音に慣れる機会を作っていく。 ・視覚的な資料や映像を活用したり、スモールステップで活動を展開したりすることで、少しずつ抵抗感を減らしながら参加できるようにしていく。 ・ALTの先生との交流を通して、外国語を聞いたり、話したりする機会を増やす。 ・非言語コミュニケーションの大事さを伝えるときに、ミニゲームや児童同士の交流の場を設定し、「伝わった」という経験を積ませる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
特別 の 資 料 道 徳	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					
特別 の 資 料 道 徳	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
	知識・技能			・学級会では、話合いの仕方を理解し、見通しをもって話し合うことができるようになってきている。自分の考えを伝える意見が出てきたときに、折り合いを付けたら、他の意見の良さを認めたりすることが苦手な児童も多い。自分たちで決めたことを自分たちで実践することに個人差や、やりがいを見いだしている児童が増えている。 ・学級での生活においては、個人差が大きく、自分を見つめたり、なりたいたいに向けて努力したりできる児童が増えてきている。一方、それが難しい児童も多い。	・学級会では、児童の問題意識を高められるように、事前の活動を充実させる。 ・学級会後の教師の指導・助言を適切に行い、次の話合いに生かせるように児童や児童会においては、事前に題材を提示し、問題意識を高められるようにする。個人目標の設定など、目標実現に向けての過程で、児童同士の認め合いや教師の励ましを行い、意欲を高める。
思考力・判断力・表現力					
主体的に学習に取り組む態度					

令和5年度・日野市立仲田小学校 第5学年 授業創造プラン

	観 点	日野市学力調査		児童の実態・よさと課題 〔I〕の記述は、東京都「児童生徒の学力向上を図るための調査」の結果	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
		本校	市平均		
国語	知識・技能	67.0	73.1	・「知識・技能」は、日野市平均値を6.1ポイント下回っている。既習の漢字や熟語が定着していない児童が目立つ。また、言葉の意味を知らない児童と知っている児童の差がある。 ・都の調査では「国語の学習は得意ですか」の項目で、45%以上の児童が「得意ではない」「どちらかといえば得意ではない」と答えていた。スモールステップの活動を増やし、苦手意識を克服させていく必要がある。 ・「思考力・判断力・表現力」は日野市の平均値を3.7ポイント下回っている。考えることを苦手と思っている児童がいる。 ・「読むこと」については、読むことに集中できない児童がいる。 ・「書くこと」に対して苦手意識をもっている児童が多い。自分の考えが伝わるように筋道立てて書く力を身に付けることが課題である。その際、助詞や接続詞の使用など、基本的な言語事項を確認し、分かりやすい文章を書くようにしていく。 ・「話すことと聞くこと」については、大事なことを伝えたり聞き取ったりできるように、相手意識を育てていくことが課題である。	・既習漢字の定着には復習が欠かせない。家庭学習に加え、学校でもチャレンジタイムを活用して、既習漢字を復習する時間をもつことで、定着を図っていく。また、語彙を増やすために漢字学習の際に言葉調べを行っていく。 ・自分の考えを書く機会を意図的・継続的に設け、「書く力」を身に付ける。国語科の授業を中心に、感想、意見文など、自分の考えを書く学習を積極的に取り入れていく。 ・誰に、何を伝えたいのかを明確にして、相手意識をもって表現できるようにする。また、相手の話の大事なところを落とさずに聞く力を育てていく。
	思考力・判断力・表現力	64.7	68.4		
	主体的に学習に取り組む態度				
社会	知識・技能			・「知識・技能」については、日本の地理的環境について十分理解できている児童は少ない。産業の様子については、概ね理解できていると考えられる。日頃の学習活動において、資料から情報を読み取る力も付いてきた。 ・都の調査では「社会の学習は得意ですか」の項目で、45%以上の児童が「得意ではない」「どちらかといえば得意ではない」と答えていた。見通しをもてる学習で、苦手意識を克服させていく必要がある。 ・「思考力・判断力・表現力」については、日頃の学習活動において、産業が抱える課題と国民生活との関連について言葉で表したり、考えをもたらしすることに課題がある。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、他教科と比べて、授業中に積極的な発言が見られる。一方で、全ての児童の意見や考えを学習中に共有できているわけではない。	・新しく出てきた用語などを覚えられるよう、視聴覚資料を活用してより印象に残るようにするなどして理解を助ける。 ・授業の中でニュースや時事、外国での出来事などについても触れ、児童が興味・関心をもてるようにする。身近な地域に目を向けて課題意識をもてるようにする。 ・学習用端末を活用し、児童の意見や考えが数多く共有されるような学習活動を積極的に展開していく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
算数	知識・技能	68.1	68.9	・「知識・技能」は、日野市の平均値を0.8ポイント下回っている。基本的な計算などができていない状況がある。さらに、習熟度の高い児童と低い児童で二極化している傾向がある。 ・都の調査では「算数の学習はどれくらい得意ですか」の項目で、「得意」「どちらかといえば得意」の割合が約割を超えていた。得意と思っている児童は多数いる。 ・「思考力・判断力・表現力」は日野市の平均を6.3ポイント下回っている。課題解決に向けて意欲的に学習に取り組む児童が少ない。式の意味を読み取ったり、既習事項を基に考えたりすることが苦手な児童もいる。	・基礎基本の習熟が確実にできるように、学習者用端末を効果的に使い授業中の習熟を図る。また、チャレンジタイムで基本の問題を行い定着を目指す。 ・習熟に個人差が見られるため、レディネステストの指導を生かし、習熟度ごとにその傾向に沿った学習活動を展開する。 ・自分の考えをもち、他者に伝える対話的な活動を取り入れる。学習者用端末を効果的に用いて、自分の考えだけでなく、友達の考えにも積極的に触れる機会を作ることで、学習の内容をより深いものにする。
	思考力・判断力・表現力	25.6	31.9		
	主体的に学習に取り組む態度				
理科	知識・技能			・「知識・技能」については、理科的事象における基本的な意味や知識を身に付けている児童とそうでない児童が二極化している。 ・「思考力・判断力・表現力」については、実験の計画を考えたり、生活経験や知識をもとに予想を立てたりする学習に課題が見られる。 ・都の調査では「理科の学習はどれくらい得意ですか」の項目で、「得意」「どちらかといえば得意」の割合が約割を超えていた。得意と思っている児童は多数いる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、すすんで観察したり実験に取り組んだりする態度が毎時間見られる。	・問題解決の学習の流れを大切にしつつ、実験や観察活動を取り入れて学習活動を進めることで、興味・関心をもっと取り組めるようにする。 ・5年生では、主に実験方法を考える活動を重視することで、科学的な思考が身に付けられるようにする。その際は、条件制御の考え方をしっかりと確認して進めていく。 ・予想や考察の場面などで、学習者用端末を活用し、表現活動を行い、対話を通して思考を深められるようにする。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
音楽	知識・技能			「知識・技能」に関しては、自分の思いや意図に合った音楽を表現する技能が身に付いている。また、リコーダーの息使いに気を付け、美しい音色を求めようとする姿勢が見られる。一方で、指先の感覚が備わっていなかったり、器用ではなかったりする児童もいる。 ・「思考力・判断力・表現力」に関しては、音楽の要素を感じ取り、その良さや面白さを味わうことのできる児童が多い。 ・「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、友達の発言や演奏の良さを認めてあげられる児童が多く、音楽活動に対して意欲や関心も高い。集中力の持続が難しく、話を聞いていないかったり、音に対する反応が鈍かったりする児童がいる。	・リコーダーの指導の際には、必ず正しい姿勢と息使いを確認していく。また、技能が追い付かない児童に対して言葉掛けを行ったり、個別の練習を促したりする。 ・音楽の要素を授業の中で共通理解し、児童が鑑賞の良さを共有できるようにしていく。 ・小グループ活動を取り入れ、協働的な学びができるようにしていく。また、簡単な手拍子の反復する学習を繰り返したり、言葉掛けなどに気を付けたりして、全員が集中する時間帯をなるべく多く設定する。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
図画工作	知識・技能			・「知識・技能」については、平面は自分が案そうすることに合わせて、材料や用具を選び工夫することができる。立体や工作に関しては、見通しをもって活動を進めていることが全体的に苦手である。 ・「思考力・判断力・表現力」については、自分らしく豊かに発想できる児童が多い。一方で、抽象的なテーマに対しては、道具や素材の特徴を捉えて発想を膨らませることができず、自分の思いを形や色に表現できずに終わってしまう児童もいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、意欲的に夢中になって取り組んでいる児童が多い。丁寧にじっくり取り組む児童と、勢いよく活動しすぐに終わる児童との個人差が大きい。	・児童の成長を見ながら、使う用具を増やしていく。新しい用具や材料を使うときは安全面を配慮し丁寧に指導することで児童が安心して活動できるようにする。また、手紙が分かるように板書を常に工夫し、それぞれの見通しをもつ力を育てる。 ・題材によっては、使う色や素材を限定することにより、その中でできる表現方法を自ら発見し、自分のイメージに合わせて活動を深めていけるようにする。 ・興味をもたれるような導入を行い、制作意欲を高めていく。また、メリハのある授業展開にし、一つのテーマについて多角的に探めていく面白さを生かす。 ・鑑賞の時間を通じて、お互いの表現の良さを認め合い、向上していけるような雰囲気をつくる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
家庭	知識・技能			・家庭で、家族のためにできる仕事に取り組んでいる児童が多い。 ・家庭科で習得した知識や技能を家庭生活に生かしたいという意欲的な児童が多い。 ・手先の器用さが必要になる裁縫で、段取りよく作業できる児童もいれば、苦手な児童もいる。お互いに教え合いながら課題に取り組んでいる姿が見られる。	・裁縫では、技術を丁寧に指導し、教え合いの活動を重視することで、全員が技能を習得できるようにする。 ・教科書にある内容を見たり、ワークシートにまとめたりするだけでなく、実践を通して活動させる。「できた。」「作った。」「という手応えを感じられる指導を行うことで、学習の理解を深め、実生活に生かせるような指導を重ねていく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
体育	知識・技能			・「知識・技能」については、コロナ禍の影響もあり、実施できていない領域の運動技能が低い。 ・「思考力・判断力・表現力」については、グループなどで課題解決に向けて積極的に話し合っているが、課題をもとに作戦を考えたり、練習を工夫したりする意識は乏しい。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、学習の準備や勝敗を受け入れる態度、集団行動の意識が低い児童がいる。	・技能については、それぞれの技術を短期間で向上できるように、体系的かつ確定的な指導を実施するとともに、多様な児童のニーズに対応した増づけを行う。 ・領域ごとの運動に関する特性を児童に理解させ、それらを実用的に作戦や練習に取り入れられるよう、既習事項をもとに学習を展開していく。 ・学習に取り組む態度の良さを生かし、体育科における汎用的スキルとしての理解を児童に促すことで、日常生活にもその態度を意識させる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
特別の教科道徳				・価値観について理解している場面が見受けられ、自分と他人との違いに気が付いている児童もいる。 ・将来に向けて夢をもつことなど、未来の自分について考えることが苦手な児童もいる。 ・自分が得意なことなど、自分を振り返ることが苦手な児童もいる。	・教材を通して、自己を見つめ、物事を多角的にとらえることで様々な考え方に触れられるように指導する。自分を振り返る活動を通して、日常生活にも生かせるように指導していく。 ・対話的な活動を通して、様々な考え方に触れることで、自己の道徳的価値を見つめ直す機会を多く作っていく。
外国語	知識・技能			・「知識・技能」については、学習した単語を聞き取る力は身に付いており、日本語と英語の発音の違いなどについても理解している児童が多い。既習の単語が定着していない児童もいる。 ・「思考力・判断力・表現力」については、アルファベットを正しく書くことについての定着が図られてきた。一方で、自分の考えを文で表現することに課題がある。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、大きな声で英語を発音したり、積極的にアクティビティに取り組む姿勢が見られる。	・単語だけでなく、簡単な文を聞いたり、発音をまねて言ったりする機会を増やし、一層の知識の定着を図りたい。 ・自分が表現したい文を作成する機会を単元のまとめだけでなく、複数回設定し、「書くこと」の素地を養っていく。 ・英語を発音することに対する発音的な抵抗感が表出する前に、英語でのコミュニケーションを一般化していきたい。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
特別活動				・学級会では、話し合いの仕方を定着させていく必要がある。友達の意見を受け入れたり、双方のよいところを理解したりする態度を育むことが今後の課題である。 ・学級での生活においては、明確な自分の目標を立てる児童がいる一方、具体的に目標を立てられず、日頃の生活に反映されない児童もいる。	・学級会では、事前の活動を充実させ、児童の動機付けを高める。 ・学級会後は、児童とともに教師が活動を振り返るなど、終末の助言を適切に行う。 ・学級での生活においては、問題意識を高められるように事前に課題を提示する。個人目標を児童同士が見合い、互いに高め合えるような風土を育む。
総合的な学習の時間	知識・技能			・身近な事象から具体的な課題をつまむ児童はあまり多くない。社会の一員としての自覚をもち、自分が社会をよりよく変えていく力になるということを実感できるようにしていくことが課題である。 ・ものごとの探究方法として、安易にインターネットに頼る傾向があるが、情報ソースの信頼性についての理解は十分ではない。求める情報を書籍から見付け出す力も付けていく必要がある。また、探求方法として	・自分の生活や体験から、なぜだろうという疑問や、事象に対する自分の考えを大切にしたい。更に、調べたり、解決策を考えたりする活動につなげ、主体的な探究の体験を重ねていくように指導していく。 ・書籍を探す、インタビューや手紙を使った間接的な調査、実際に行き取材をするなど、それぞれの方法の良さを生かし、選択できるようにする。学習用端末を使用するに当たり、インターネットリテラシーの理解を深め実践に生かす。また、インタビューやフィールドワークなど、自分の足で情報を収集する方法も知らせ、体験させていく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				

令和5年度・日野市立仲田小学校 第6学年 授業創造プラン

	観 点	全国学力調査		児童の実態・よさと課題 〔I〕の記述は、東京都「児童生徒の学力向上を図るための調査」の結果	課題を克服するための授業改善の具体的な方法 力を入れている学力向上のための取組
		仲田小	全国平均		
国語	知識・技能	72.2	68.9	・「知識・技能」は、全国平均値を3.3ポイント上回っている。評価ごとの観点においてもどの問題に対しても全国平均値を上回っている。文の中で漢字を正しく使うことや、情報と情報との関連付けや図などによる語句と語句の関係を捉えることに關しては、全体的に理解している児童が多かった。 ・「思考力・判断力・表現力」は、全国平均値を1.2ポイント下回っている。記述式の問題形式の平均正答率を見ると、全国平均値を3.8ポイント下回っている。文章を読んで「理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが課題である。また、無回答率も全国平均値に比べると高い。書くことに対しての苦手意識や抵抗感が感じられる。	・漢字や語彙に関しては、引き続き新出漢字を使って文章を書かせたり、辞書を使って語彙を増やしやりたり、学習内容の定着を図る。 ・書くことにおける苦手意識が課題である。例示を示しながら書く内容を分けて書き方の指導を繰り返し行っている。書くことの楽しさを感じられるようにする。また、週に一回日記を書かせ、書くことへの抵抗感をなくしていく。題材に迷うことも考えられるので、一週間の中で一番思い出に残ったことや、場合によっては教師側から題材を提示していく。
	思考力・判断力・表現力	64.3	65.5		
	主体的に学習に取り組む態度				
社会	知識・技能			・「知識・技能」に関しては、時代ごとの特徴を理解したり、歴史上の人物とその業績が正しく結び付けられりすることが苦手な傾向がある。 ・「思考・判断・表現」では、学んだ知識や資料等から、史実の因果関係を説明することに課題がある。資料の情報（文章やグラフ等）を読み取る際、分かったことを整理しまとめる過程で、どの情報を取捨選択するべきか分からず、まとめきれない児童が一部いる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、歴史領域に興味をもち、すすんで取り組もうとしている児童が多い。	・基礎的な知識や理解を深めることができるよう、誰が、どのような理由でどんなことをしたのかを明確にするとともに、その内容を理解できるよう、資料の内容や提示の仕方、発問を工夫していく。 ・得た知識から時代の流れを考えさせたり、なぜそうなったのかという理由を考えさせたりする学習を取り入れ、知識を相互に関連付けて、より深く理解させるよう配慮する。 ・主体的に取り組めるように学習の見通しをもたせたり、学習したことを振り返りたりするなど、日常生活にどのように生かすことができるのかを考えられるように、授業改善していく。 ・インターネットの情報収集では、目的意識をはっきりさせたり、クロームブックを活用した効果的なまとめ方を随時指導することで、情報の取捨選択ができるようにする。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
算数	知識・技能	73.9	67.2	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」共に、全国平均を上回っている。全体の特徴として、算数が得意な児童と苦手な児童との差が大きく、中間層の児童が少数いる。 ・「知識・技能」においては、問題別に見ても概ね全国平均値を上回っている。一方、「思考力・判断力・表現力」においては、記述式の問題形式の平均正答率を見ると、全国平均値を3ポイント下回っている。なぜその答えを選んだかを数や言葉を使って説明することに対して課題がある。	・算数に苦手意識のある児童には特に、基礎的・基本的な事項を確実に習得できるように、既習事項の確認を含めて、丁寧に授業を進めていく。また、習熟度別授業では、毎回系統性を反映させたレディネステストを作成し、児童の習熟度に合わせて、授業の内容を考えていくようにする。 ・ICTを活用し、授業の流れに見通しがもてるようにしたり、スモールステップで授業を進めたりすることで児童が達成感をもてるように指導を行っていく。 ・公式を暗記させるのではなく、思考の過程を大切にしたり指導を積み重ね、考えの共有の場では互いに説明し合う時間を設けることで、筋道立てて理解できるようにする。
	思考力・判断力・表現力	57.1	56.5		
	主体的に学習に取り組む態度				
理科	知識・技能			・「知識・技能」では、各単元末テストから見ると、概ね理解している。しかし、臓器の名前やその働きについて理解できていない児童が多いなど、単元によっては理解が浅いところがある。 ・「思考力・判断力・表現力」では、予想や仮説を立てる際、生活体験や既習事項を活用しながら考えることができていた。考察の場面では、実験結果から分かることを大まかに捉えることはできているが、結果を分析したり考察したりすることが苦手である。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、予想のとき、生活経験から多くの仮説を立てるなど、理科に対しての興味や関心が全体的に高い。 ・気体検知管等の実験器具の名称や使い方を理解していない児童がいる。また、目的意識をもって実験に取り組んでいない児童も見られる。	・自然現象との出会いを大切にしながら、実際に使用する器具の名称や使い方を理解するとともに、実際に実験して確かめることの楽しさを感じられるようにしていく。 ・結果には事実をそのまま書き、考察に結果から考えられることを記載するなど、ノート指導を十分に行っていく。 ・実験結果を分析する時間や、全体で共有する時間を十分に確保することで、的確に考察できるようにしていく。 ・見方や考え方を活用した声掛けを行うことで、児童が考える視点をもちやすくする。「比較する・関係付ける・条件を制御する・多角的に考える」などの考え方をを使って、自分の考えを自由に表現できるようにしながら、思考力・判断力・表現力を高めていく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
音楽	知識・技能			・「知識・技能」に関しては、リコーダーの息使いに気を付け、美しい音色を求めようとする姿勢が見られる。しかし、指先の感覚が慣わっていないかったり、器用ではなかったりする児童もいる。 ・「思考力・判断力・表現力」に関しては、音楽を聴いて思考したり、想像したりしていることはあるが、人前で発表することに苦手意識がある児童がいる。音楽の要素を感じ取り、その良さや面白さ味わうことのできる児童が多い。 ・「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、友達の発言や演奏の良さを認めてあげられる児童が多い。また音楽活動に対して、意欲や関心の高い児童が多い。	・リコーダーの指導の際に正しい姿勢と息使いを確認していく。また技能が追い付かない児童に対して言葉掛けを行ったり、休み時間の間に個別に練習させたりする。 ・事前に近くの児童同士で話し合わせ、意見に対する自信をもたせうで、拳手をさせるようにする。また、音楽の要素を授業の中で共通認識し、児童が「鑑賞の良さを共有」できるようにしていく。 ・小グループで活動する時間を取り入れ、友達と協働的な学びができるようにする。また、様々な題材や教材を取り入れ、多角的な視点から音楽活動を豊かなものにさせる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
図画工作	知識・技能			・「知識・技能」については、今までの経験を生かして、自分の表したいことを基に、材料や道具を選び工夫することができている児童が多い。一部、道具の扱いが不安な児童もいる。 ・「思考力・判断力・表現力」については、自分の興味や思いを大切に、自信をもって豊かに発想できる児童が多い。その反面、表現が記号的なものから深めることができない児童もいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、意欲的に夢中になって取り組んでいる児童が多い。友達の作品の良さや美しさを認め合うことができ、クラスで高め合うことができる。	・自分のイメージに合わせて、材料や道具を自分で選択し、使いこなせるように題材に取り組ませる。また、新しい用具や材料を扱うときは安全面を配慮して丁寧に指導することで児童が安心して活動できるようにする。 ・色や形や素材そのもので行う造形遊びなどの活動を取り入れ、経験を増やし、表現の柔軟性を身に付けさせる。 ・メリハリや緩急を付けて、一つのテーマについて多面的に深めていく面白さを学ばせる。また、定期的に鑑賞会を行い、自分の表現に自信をもたせる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
家庭	知識・技能			・「知識・技能」については、基本的な調理器具の使い方やミシンの使い方などに課題がある。手先の不器用さから裁縫の作品などを適切に仕上げるのが難しい児童がいる。 ・「思考力・判断力・表現力」については、学習を振り返る機会が少ないため、十分に考えて活動に臨んでいる児童としない児童がいる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については、洗濯の実習や、調理実習に意欲的に取り組む児童が多い。一方、学習したことから考えたり、日常生活に取り入れたりすることに結び付けにくい意欲が高まりが見られない。	・調理実習では、調理工程の中で一部の児童に役割が偏らないよう、十分に計画を練らせる。また、教師も確認を行う。 ・授業の導入と終末に、本時のめあてと振り返りを記入させることで、学習の見通しや、自分が学んだことを自覚しながら学習を進められるようにする。 ・学習内容に関連して、日常生活に密着した事象や興味をもてる事象を取り入れるなど、授業展開を工夫する。また、授業で学んだことを実生活に生かす機会を保障することで、知識だけでなく、行動につなげることができるようになる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
体育	知識・技能			・「知識・技能」については、コロナ禍の影響もあり、実施できていない領域（器械運動等）の運動技能が著しく低い。 ・「思考力・判断力・表現力」については、グループなどで課題解決に向けて積極的に話し合っているが、課題を前に作戦を考えたり、練習を工夫したりする意識には課題がある。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、学習の準備や勝敗を受け入れる態度など、よく身に付いている。	・技能については、それぞれの技術を短期間で向上できるよう、体系的かつ確定的な指導を実施するとともに、多様な児童のニーズに対応した指導を行う。 ・領域ごとの運動に関する特性を児童に理解させ、それらを応用的に作戦や練習に取り入れられるよう、既習事項を基に学習を展開していく。 ・学習に取り組む態度の良さを生かし、体育科における汎用的スキルとしての理解を児童に促すことで、日常生活にもその態度を意識させる。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
特別の教科 道徳				・価値観について理解している場面が見受けられ、自分と他人との違いに気が付いている児童もいる。また、考えたことをすすんで書いたり互いの意見を聞き合ったりしている。 ・意見を発表する児童が一定となってしまうことがある。 ・内容項目「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」について考えが深まりづらい。	・教材を通して自己を見つめ、物事を多角的に捉えることで様々な考え方に触れられるように指導する。自分自身を振り返る活動を通して、日常生活にも生かせるように指導していく。 ・対話的な活動を通して、様々な考え方に触れることで、自己の道徳的価値を見つめ直す機会を多く作っていく。
外国語	知識・技能			・「知識・技能」については、学習した単語を聞き取る力は身に付いており、日本語と英語の発音の違いなどについてもよく理解している児童が多い。一方、四線に沿ってアルファベットを書くことに関して、一部課題がある。 ・「思考力・判断力・表現力」については、相手とやり取りの中で、ジェスチャーを交えながら伝えようしたり、リアクション（「Nice!」や「Good!」等）を取ったりする姿が見られる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」では、大きな声で英語を発言したり、積極的に活動に取り組む姿勢が見られる。	・単語だけでなく、簡単な文を聞いたり、発音を真似たりする機会を増やし、一層の知識の定着を図る。また、自分の名前や単語を書く機会を増やしていく。 ・表現の仕方を教えたり、良い模範となる姿を価値付けたりしていく。 ・英語を発音することに対する発音的な抵抗感が表出する前に、英語でのコミュニケーションを一般化していく。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				
特別な 学習の 指導				・学級会では、話し合いの仕方が定着している。限られた時間の中で結論付けたり、双方の良いところを理解したりする態度を育むことが今後の課題である。 ・学級での生活においては、明確な自分の目標を立てる児童がいる一方、具体的に目標を立てられず、日頃の生活に反映されない児童もいる。	・学級会では、事前準備の時間を確保し、児童の動機付けを高める。 ・学級会後は、児童と共に活動振り返り、終末の助言を適切に行う。 ・学級での生活においては、問題意識を高められるように事前に課題を提示する。個人目標を児童同士で見合い、互いに高め合えるような風土を育む。
	知識・技能			・持続可能な社会のために（SDGs）についての学習では、SDGsの由来や意味について触れ、自分が興味のある内容を課題設定することができた。また、日野市はSDGs未来都市に選定されており、その中の取組に着目し、地域をテーマとした取組を中心に意欲的に情報収集したり、実際に郊外に出て自分たちで考えて活動したりした。 ・学習の過程で実態を体験的に知ることができたり、更なる疑問をもったりすることで、学びが深まった。 ・児童の課題意識が連続したり発展したりしない点が見られる。	・自分の生活や体験から、「なぜだろう」という疑問や、事象に対する自分の考えを大切にいく。さらに調べたり、解決策を考えたりする活動につなげ、主体的な探究の体験を重ねていくように指導していく。 ・インタビューや手紙を使った間接的な調査や、実際に現地を訪れ、取材をするなど、それぞれの良さを生かし、情報収集の方法を模索できるようなし。 ・最後に、得た情報を相手に分かちあう／発信する方法を検討させる。活動を通して関わった方々を招き、発表の場を設ける。
	思考力・判断力・表現力				
	主体的に学習に取り組む態度				